

## 幾何学的 Association scheme とその部分要因

### 配置計画への応用について

金沢大 理 藤井 淑夫

#### §1. 序論および記号

要因配置計画における一部実施法(部分要因配置計画)における分散分析等については多くの研究がある(例えば Box and Hunter 参照 [1]).

しかし現在まで association schemes および association algebra 等の代数的な観点からはほとんど考察されていない. ここではその手はじめとして, 新しい型の association schemes 等を定義し, この立場から系統的に部分要因配置計画をみようと考えた. これらの association schemes および対応する association algebras の構造を明らかにし, 部分要因配置計画における別名 (aliases) 関係, block 擬要因, および block 配置計画における部分混同 (partial confounding) 等について述べる.

この小論を通じて必要な記号を述べる.

$I_n$ :  $n \times n$  の単位行列.

$G_n$ : すべての要素が 1 である  $n \times n$  行列.

$A \otimes B$ : 行列  $A = \|a_{ij}\|$  と  $B$  の Kronecker 積, すなわち  $A \otimes B = \|a_{ij} B\|$ .

$[A_i; i=1, \dots, m]$ : 行列  $A_i; i=1, \dots, m$  の linear closure によって生成される実数体上のベクトル空間.

$\{A_i; i=1, \dots, m\}$ : 行列  $A_i; i=1, \dots, m$  を生成元とする実数体上の多

元環 (Algebra).

$\{A_i; i=1, \dots, m\}$  :  $A_i; i=1, \dots, m$  を要素とする集合.

$GF(\delta)$  :  $\delta = q^u$  個の元からなる有限体.  $q$  は素数,  $u$  は正整数とする.

また  $GF(\delta)$  の元は座標表現 (多項式表現) として,  $a = \langle a^{(1)}, \dots, a^{(u)} \rangle$

,  $a^{(i)} \in GF(q), i=1, \dots, u$  で表わすことにする.

$EG(k, \delta)$  :  $GF(\delta)$  上の  $k$  次元 Euclid 空間.

$PG(k, \delta)$  :  $GF(\delta)$  上の  $k$  次元射影空間.

$\mathcal{P}(A)$  :  $GF(\delta)$  上の行列  $A$  ( $k \times p$ ) ( $\neq 0$ ) の  $p$  個の列ベクトルの生成する  
 $PG(k-1, \delta)$  の部分空間.

$\overline{PG}(k, \delta)$  :  $PG(k, \delta)$  に零ベクトル  $0$  ( $\in EG(k+1, \delta)$ ) を添加して生ずる  
空間. すなわち,  $\overline{PG}(k, \delta) = PG(k, \delta) \cup \{0\}$ .

$\overline{\mathcal{P}}(A)$  :  $\overline{\mathcal{P}}(A) = \mathcal{P}(A) \cup \{0\}$ .

$\mathcal{P} \cup \mathcal{Q}$  :  $PG(k, \delta)$  の部分空間  $\mathcal{P}, \mathcal{Q}$  を同時に含む最小の部分空間.

$\mathcal{P} \cap \mathcal{Q}$  :  $PG(k, \delta)$  の部分空間  $\mathcal{P}, \mathcal{Q}$  に同時に含まれる最大の部分空間.

$\underline{a} = (a_1, \dots, a_k)'$  :  $EG(k, \delta)$  上の点. 座標成分はラテン文字で表わす.

$\underline{\alpha} = (\alpha_1, \dots, \alpha_k)'$  :  $PG(k-1, \delta)$  上の点. 座標成分はギリシヤ文字で表わす.

1. 代表のものを固定する. また  $GF(\delta)$  の座標表現を用いて, 例えば

$EG(k, \delta)$  上の点  $\underline{a}$  は  $\underline{a} = (a_1, \dots, a_k)$ ,  $a_i = \langle a_i^{(1)}, \dots, a_i^{(u)} \rangle$ ,

$a_i^{(l)} \in GF(q), i=1, \dots, k, l=1, \dots, u$  で表わされる.

## §2. $PG(k-1, \delta)$ - association scheme

点  $\underline{a}$  ( $\in EG(k, \delta)$ ) を標識とする  $v_k = \delta^k$  個の treatments  $\phi(\underline{a}) = \phi(a_1, \dots, a_k)$

を考へ、これらの  $v$  個の *treatments* の間に次の関係を導入する。

$EG(k, \Delta)$  上の任意の 2 点  $\alpha, \beta$  に対し、

$$(2.1) \quad \alpha - \beta = p\alpha' \quad ; \quad p \in GF(\Delta), \quad p \neq 0, \quad \alpha' \in PG(k-1, \Delta)$$

のとき、*treatments*  $\phi(\alpha)$  と  $\phi(\beta)$  は  $\alpha'$ -th associate の関係にあるとい

$$\phi(\alpha) \xrightarrow{\alpha' \text{-th}} \phi(\beta)$$

で表わす。便宜上、任意の *treatment* はそれ自身の 0-th associate ( $\alpha' = (0, \dots, 0)$ ) であるとする。

$v$  個の元の間に導入された *treatments* の間のこの関係は *association scheme* (例えば [2] 参照) のみたすべき条件 (a), (b), (c) を同時に満足することが示される。すなわち

(a) 任意の相異なる 2 つの *treatments* は、いずれかの  $\alpha' (\in PG(k-1, \Delta))$ -th associate であつて、それに限る。且つ *association* の関係は対称的である。またすべての *treatment* はそれ自身の 0-th associate である。

このことは定義より明らかである。

(b) 任意に固定した *treatment*  $\phi(\alpha)$  と  $\alpha'$ -th associates である *treatments*  $\phi(\beta)$  の個数  $n_{\alpha'}$  は始めに固定した *treatment*  $\phi(\alpha)$  の選び方に無関係に一定値である。

このことは  $\phi(\alpha)$  を固定したとき、(2.1) 式をみたす解  $\beta$  の個数は、 $GF(\Delta) \setminus \{0\}$  のとり方が  $\Delta - 1$  通りであるから

$$(2.2) \quad n_{\alpha'} = \Delta - 1; \quad \alpha' \in PG(k-1, \Delta)$$

である。特に  $n_0 = 1$  である。すなわち (b) が成立する。

(c) 任意に固定した2つの treatments  $\phi(\alpha)$  と  $\phi(\beta)$  とが  $\alpha$ -th associate であるとする。このとき  $\phi(\alpha)$  と  $\beta$ -th associates であり、同時に  $\phi(\beta)$  と  $\gamma$ -th associates である treatments  $\phi(\xi)$  の個数  $p_{\beta\gamma}^{\alpha}$  は最初に固定した treatments pair に無関係である。

このことは  $\phi(\alpha)$ ,  $\phi(\beta)$  を固定したとき

$$(2.3) \quad \begin{cases} \xi - \alpha = p_{\alpha} \\ \xi - \alpha = p_1 \beta \\ \xi - \beta = p_2 \gamma \end{cases}$$

を同時に満足する解  $\xi$  の個数が  $p_{\beta\gamma}^{\alpha}$  であるが、容易に  $\alpha, \beta, \gamma \in PG(k-1, \Delta)$  のとき

$$(2.4) \quad p_{\beta\gamma}^{\alpha} = \begin{cases} 1 & ; \beta \neq \gamma \text{ で } \alpha, \beta, \gamma \text{ が共線, 且つ } \alpha \neq \beta, \gamma \text{ のとき} \\ \Delta - 2 & ; \alpha = \beta = \gamma \text{ のとき} \\ 0 & ; \text{ otherwise} \end{cases}$$

であることが示される。また特に  $\alpha, \beta, \gamma$  のうちいずれかが  $\underline{0}$  である場合は

$$(2.5) \quad p_{\beta\gamma}^{\underline{0}} = \begin{cases} \Delta - 1 & ; \beta = \gamma \neq \underline{0} \text{ のとき} \\ 1 & ; \beta = \gamma = \underline{0} \text{ のとき} \\ 0 & ; \text{ otherwise} \end{cases}$$

$$(2.6) \quad p_{\alpha\alpha}^{\alpha} = \begin{cases} 1 & ; \alpha = \gamma \text{ のとき} \\ 0 & ; \text{ otherwise} \end{cases}$$

である。したがって  $\alpha$ -th associate である treatments  $\phi(\alpha)$ ,  $\phi(\beta)$  のとり方

に無関係に  $P_{\beta\gamma}^{\alpha}$  は一定であるから、(c) が成立することかわかる。

以上のことより  $v_k$  個の treatments  $\phi(\alpha)$ ,  $\alpha \in EG(k, \delta)$  の間に  $m = \frac{\delta^k - 1}{\delta - 1}$  ( $PG(k-1, \delta)$  上の点の総数) *associate classes* の *association scheme* が導入されたが、これを我々は  $PG(k-1, \delta)$ -association scheme ということにする。特に  $k=2$  の場合は、大きさ  $\delta$  の互に直交する適当な  $\delta-1$  個のラテンオ格によつて構成される  $r = \delta + 1$  の場合の  $OL_r$ -association scheme ( $m = \delta + 1$  *associate classes*) [6] になる。

このように定義された *association scheme* の行列表現とみなされる *association matrices* は treatments  $\phi(\alpha)$  に適当に番号をつけて、次の様に定義する。すなわち

$$(2.7) \quad A_{\alpha} = \| a_{\alpha\beta}^{\alpha} \|$$

ここに

$$a_{\alpha\beta}^{\alpha} = \begin{cases} 1 & ; \quad \phi(\alpha) \xrightarrow{\alpha\text{-th}} \phi(\beta) \text{ のとき} \\ 0 & ; \quad \text{otherwise} \end{cases}$$

とする。特に  $A_0 = I_{v_k}$  である。

また treatments  $\phi(\alpha)$  に辞引的に番号をつけることにより、 $v_k \times v_k$  の *permutation matrix*

$$(2.8) \quad P = \left\| \begin{array}{cccc} 0 & & & 1 \\ 1 & 0 & & \\ & & \ddots & \\ & & & 1 \\ & & & & 1 & 0 \end{array} \right\|$$

を用いて、 $A_{\alpha}$ ;  $\alpha \in PG(k-1, \delta)$  は次の様に表わすことが出来る。

$$(2.9) \quad A_{\alpha} = \sum_{\beta \in EG(k-1, \delta), \beta \neq 0} P^{\beta\alpha}$$

ここに

$$P^{\rho\alpha} = \prod_{i=1}^k \otimes P^{\rho\alpha_i}, \quad P^{\rho\alpha_i} = \prod_{l=1}^u \otimes P^{\gamma_i^{(l)}}, \quad \rho\alpha_i = \langle \gamma_i^{(1)}, \dots, \gamma_i^{(u)} \rangle$$

$$\gamma_i^{(l)} \in GF(8), \quad i=1, \dots, k, \quad l=1, \dots, u.$$

である.

定義から  $A_{\alpha}$ ;  $\alpha \in \overline{PG}(k-1, \Delta)$  はすべて対称行列であって

$$(2.10) \quad \left\{ \begin{array}{l} \sum_{\alpha \in \overline{PG}(k-1, \Delta)} A_{\alpha} = G_{V_k} \\ A_{\alpha} A_{\beta} = A_{\beta} A_{\alpha} = \sum_{\gamma \in \overline{PG}(k-1, \Delta)} p_{\alpha\beta}^{\gamma} A_{\gamma} \end{array} \right.$$

が成立する. 特に (2.4), (2.5), (2.6) 式から (2.10) 式は

$$(2.11) \quad \left\{ \begin{array}{l} A_0 A_{\alpha} = A_{\alpha} A_0 = A_{\alpha} \quad ; \quad \alpha \in \overline{PG}(k-1, \Delta) \text{ のとき} \\ A_{\alpha}^2 = (\Delta-1) A_0 + (\Delta-2) A_{\alpha} \quad ; \quad \alpha \in PG(k-1, \Delta) \text{ のとき} \\ A_{\alpha} A_{\beta} = A_{\beta} A_{\alpha} = \sum_{\substack{\gamma \in \overline{\alpha, \beta} \\ \gamma \neq \alpha, \beta}} A_{\gamma} \quad ; \quad \alpha \neq \beta, \text{ 且つ } \alpha, \beta \in PG(k-1, \Delta) \\ \text{のとき} \end{array} \right.$$

である. ここに  $\gamma \in \overline{\alpha, \beta}$  は  $\alpha, \beta, \gamma$  が  $PG(k-1, \Delta)$  上で共線であることを意味する. また (2.11) 式から

$$(2.11') \quad \left\{ \begin{array}{l} (A_0 + A_{\alpha})^2 = \Delta(A_0 + A_{\alpha}) \quad ; \quad \alpha \in PG(k-1, \Delta) \text{ のとき} \\ (A_0 + A_{\alpha})(A_0 + A_{\beta}) = A_0 + \sum_{\gamma \in \overline{\alpha, \beta}} A_{\gamma} \quad ; \quad \alpha \neq \beta, \text{ 且つ } \\ \alpha, \beta \in PG(k-1, \Delta) \\ \text{のとき} \end{array} \right.$$

が成立する.

$A_{\alpha}$ ;  $\alpha \in \overline{PG}(k-1, \Delta)$  を生成元とする実数体上のベクトル空間

$[A_\alpha; \alpha \in \overline{PG}(k-1, \Delta)]$  は (2.11) 式によつて実数体上の可換な (linear associative) algebra をつくる. これを

$$\mathcal{O}(PG(k-1, \Delta)) = [A_\alpha; \alpha \in \overline{PG}(k-1, \Delta)]$$

と書くことにする. この algebra  $\mathcal{O}(PG(k-1, \Delta))$  を  $PG(k-1, \Delta)$ -association algebra とよぶことにする. 対称行列から生成される algebra は completely reducible であり, 代数的閉体上の可換な algebra の既約表現は 1 次であるから,  $\mathcal{O}(PG(k-1, \Delta))$  は順序を度外視して  $\frac{\Delta^k - 1}{\Delta - 1} + 1$  個の既約な両側 ideals の直和として一意的に書き表わされる [2]. これらの ideals の principal idempotents を  $A_\alpha^\#$  ( $\alpha \in \overline{PG}(k-1, \Delta)$ , 特に  $A_0^\# = \frac{1}{\Delta^k} G_{\Delta^k}$  とすることができるとすると,  $\mathcal{O}(PG(k-1, \Delta))$  はこれらの principal idempotents  $A_\alpha^\#$ ;  $\alpha \in \overline{PG}(k-1, \Delta)$  の linear closure として

$$\mathcal{O}(PG(k-1, \Delta)) = [A_\alpha^\#; \alpha \in \overline{PG}(k-1, \Delta)] = \sum_{\alpha \in \overline{PG}(k-1, \Delta)} \oplus [A_\alpha^\#]$$

で表わされることが知られている (例えば [5] 参照). これらの principal idempotents  $A_\alpha^\#$  を具体的に求める方法については § 4. で述べる.

特に  $k=1$  のときは

$$(2.12) \quad \begin{cases} A_0 = I_\Delta, & A_1 = G_\Delta - I_\Delta \\ A_0^\# = \frac{1}{\Delta} G_\Delta, & A_1^\# = I_\Delta - \frac{1}{\Delta} G_\Delta \\ \mathcal{O}(PG(0, \Delta)) = [A_0, A_1] = [A_0^\#, A_1^\#] = [A_0^\#] \oplus [A_1^\#] \end{cases}$$

が成立する.

### §3. $\Delta^{k-p}$ - fractional factorial association scheme

$v_k = \delta^k$  個の treatments  $\phi(\alpha)$ ,  $\alpha \in EG(k, \delta)$  において, いま

$$(3.1) \quad F = \|f_{ij}\| \quad (p \times k) \quad p < k$$

を rank が  $p$  の  $GF(\delta)$  上の行列とするとき, 関係式

$$(3.2) \quad Fx = f, \quad x = (x_1, \dots, x_k)' \in EG(k, \delta), \quad f = (f_1, \dots, f_p)' \in EG(p, \delta)$$

をみたす  $\delta^{k-p}$  個の解  $x \in EG(k, \delta)$  の張る  $k-p$  次元の超平面:

$$(3.3) \quad \mathcal{F}_f^{k-p} = \{x \mid Fx = f, x \in EG(k, \delta)\}$$

を考える.

$\mathcal{F}_f^{k-p} \ni x$  に対応する treatments  $\phi(x)$  のみを実施するものとする. 実施した treatments  $\phi(x)$ ,  $x \in \mathcal{F}_f^{k-p}$  の間の関係を  $PG(k-1, \delta)$ -association scheme によって induce される関係によって定義する. すなわち  $\mathcal{F}_f^{k-p} \ni x, y$  に対応する 2 つの treatments  $\phi(x), \phi(y)$  が  $EG(k, \delta)$  上で  $x - y = p\alpha$ ,  $p \neq 0$  のとき,  $\alpha$ -th associate であるといひ,  $\mathcal{F}_f^{k-p} \ni x$  に対応する treatment  $\phi(x)$  はそれ自身の  $\alpha$ -th associate であると定義する. この関係が association scheme の公理をみたすことが次の様にしてわかる.

$\mathcal{F}_f^{k-p} \ni x, y$  に対応する treatments  $\phi(x), \phi(y)$  が  $EG(k, \delta)$  上で

$$\phi(x) \xrightarrow{\alpha\text{-th}} \phi(y)$$

であるとき, 勿論  $Fx = f$ ,  $Fy = f$  であるから, したがって  $F(x-y) = 0$  である. 故に association の関係を標示する  $\alpha = (\alpha_1, \dots, \alpha_k)'$  は  $F\alpha = 0$  をみたすもの全体である. すなわち, この  $\alpha (\neq 0)$  の全体は  $PG(k-1, \delta)$  における  $k-1-p$  次元超平面を形成する. この超平面を

$$\mathcal{P}^{k-1-p} = \{\alpha \mid F\alpha = 0, \alpha \in PG(k-1, \delta)\}$$

で表わす. また  $\bar{\mathcal{P}}^{k-1-p} = \mathcal{P}^{k-1-p} \cup \{0\}$  とする.



これらの treatments  $\phi(x)$  ( $x \in \mathcal{F}_f^{k-p}$ ) の間の関係は

(a) 任意の相異なる 2 つの treatments  $\phi(x), \phi(y)$  はいずれかの  $\alpha$ -th ( $\alpha \in \mathcal{P}^{k-1-p}$ ) associate であって, それに限る. また association の関係は対称的である. 特に  $\phi(x)$  はそれ自身の  $0$ -th associate である.

(b) 任意の treatment  $\phi(x)$  ( $x \in \mathcal{F}_f^{k-p}$ ) の  $\alpha$ -th associates であるものの個数  $n_\alpha$  は

$$(3.4) \quad n_\alpha = \begin{cases} \Delta - 1 & ; \alpha \in \mathcal{P}^{k-1-p} \text{ のとき} \\ 1 & ; \alpha = 0 \text{ のとき} \end{cases}$$

である.

(c) 任意の 2 つの treatments  $\phi(x), \phi(y)$  が  $\alpha$ -th associate であるとする. そのとき,  $\phi(x)$  と  $\beta$ -th associates であり, 同時に  $\phi(y)$  と  $\gamma$ -th associates ( $\beta, \gamma \in \overline{\mathcal{P}^{k-1-p}}$ ) である treatments  $\phi(z)$  (このとき自動的に  $z \in \mathcal{F}_f^{k-p}$  である) の個数  $p_{\beta\gamma}^\alpha$  は  $PG(k-1, \Delta)$ -association scheme の場合と同様に  $\alpha, \beta, \gamma \in \mathcal{P}^{k-1-p}$  のとき

$$(3.5) \quad p_{\beta\gamma}^\alpha = \begin{cases} 1 & ; \beta \neq \gamma, \alpha \in \overline{\beta, \gamma} \text{ 且つ } \alpha \neq \beta, \gamma \text{ のとき} \\ \Delta - 2 & ; \alpha = \beta = \gamma \text{ のとき} \\ 0 & ; \text{ otherwise} \end{cases}$$

が成立する. 特に  $\alpha, \beta, \gamma$  のうち  $0$  のものがあるとき

$$(3.6) \quad p_{\beta\gamma}^0 = \begin{cases} \Delta - 1 & ; \beta = \gamma \in \mathcal{P}^{k-1-p} \text{ のとき} \\ 1 & ; \beta = \gamma = 0 \text{ のとき} \\ 0 & ; \text{ otherwise} \end{cases}$$

$$(3.7) \quad p_{\alpha\beta}^{\alpha} = \begin{cases} 1 & ; \quad \alpha = \beta \text{ のとき} \\ 0 & ; \quad \text{otherwise} \end{cases}$$

が成立する。以上のことから  $p_{\beta\gamma}^{\alpha}$  は最初に選んだ treatments pair  $\phi(x), \phi(y)$  の選が方に無関係である。

故にこの treatments  $\phi(x)$  ( $x \in \mathcal{F}_f^{k-p}$ ) の間の association の関係は  $\frac{\lambda^{k-p}-1}{\lambda-1}$  associate classes ( $\mathcal{P}^{k-1-p}$  の点の総数) の association scheme であることがわかる。この association scheme を  $PG(k-1, \lambda)$ -association scheme によって induce された  $\lambda^{k-p}$ -fractional factorial association scheme ということにする。以上のことから次の定理を得る。

定理 I.  $EG(k, \lambda)$  のある超平面  $\mathcal{F} = \{x \mid Fx = f, x \in EG(k, \lambda)\}$  の元に対応する treatments  $\phi(x)$  の間に  $PG(k-1, \lambda)$ -association scheme によって induce される関係は association scheme の公理を満足する。

$\mathcal{F}_f^{k-p}$  の点に適当に番号をつけて、 $\lambda^{k-p}$ -fractional factorial association scheme の行列表現である association matrices を定義する。すなわち

$$(3.8) \quad B_{\alpha} = \|a_{x\alpha}^y\| ; \quad x, y \in \mathcal{F}_f^{k-p}, \quad \alpha \in \bar{\mathcal{P}}^{k-1-p}$$

である。定義から  $B_{\alpha}$  は  $v_{k-p} \times v_{k-p}$  の対称行列で、特に  $B_0 = I_{v_{k-p}}$  である。また明らかに次の関係式が成立する。

$$(3.9) \quad \begin{cases} \sum_{\alpha \in \bar{\mathcal{P}}^{k-1-p}} B_{\alpha} = G_{v_{k-p}} \\ B_{\alpha} B_{\beta} = B_{\beta} B_{\alpha} = \sum_{\gamma \in \bar{\mathcal{P}}^{k-1-p}} p_{\alpha\beta}^{\gamma} B_{\gamma} \end{cases}$$

また、特に

$$(3.10) \quad \begin{cases} B_0 B_\alpha = B_\alpha B_0 = B_\alpha & ; \alpha \in \overline{\mathcal{P}}^{k-1-p} \text{ のとき} \\ B_\alpha^2 = (\delta-1) B_\alpha + (\delta-2) B_\alpha & ; \alpha \in \overline{\mathcal{P}}^{k-1-p} \text{ のとき} \\ B_\alpha B_\beta = B_\beta B_\alpha = \sum_{\substack{\gamma \in \overline{\mathcal{P}}^{k-1-p} \\ \gamma \neq \alpha, \beta}} B_\gamma & ; \alpha \neq \beta, \alpha, \beta \in \overline{\mathcal{P}}^{k-1-p} \\ & \text{のとき} \end{cases}$$

である。また (3.10) 式から

$$(3.10') \quad \begin{cases} (B_0 + B_\alpha)^2 = \delta (B_0 + B_\alpha) & ; \alpha \in \overline{\mathcal{P}}^{k-1-p} \text{ のとき} \\ (B_0 + B_\alpha)(B_0 + B_\beta) = B_0 + \sum_{\gamma \in \overline{\mathcal{P}}^{k-1-p}} B_\gamma & ; \alpha, \beta \in \overline{\mathcal{P}}^{k-1-p}, \alpha \neq \beta \\ & \text{のとき} \end{cases}$$

が成立する。  $B_\alpha ; \alpha \in \overline{\mathcal{P}}^{k-1-p}$  を生成元とする実数体上のベクトル空間は (3.10) 式によって実数体上の可換な algebra をつくる。これを

$$\mathcal{O}(\delta^{k-p} - F_r) = [B_\alpha ; \alpha \in \overline{\mathcal{P}}^{k-1-p}]$$

で表わし、 $\delta^{k-p}$ -fractional factorial association algebra ということにする。  $\mathcal{O}(\delta^{k-p} - F_r)$  の  $\frac{\delta^{k-p}-1}{\delta-1} + 1$  個の既約な両側 ideals の principal idempotents を  $B_\alpha^\#$  (特に  $B_0^\# = \frac{1}{v_{k-p}} G_{v_{k-p}}$  とすることができ) で表わす。これらの principal idempotents  $B_\alpha^\#$  を具体的に求める方法については §4. で述べる。

#### §4. $\mathcal{O}(\text{PG}(k-1, \delta))$ および $\mathcal{O}(\delta^{k-p} - F_r)$ の互に直交する idempotents

§3. で定義した  $p \times k$  行列  $F$  の  $p$  個の行ベクトルに一次独立な  $k-p$  個の一次独立な行ベクトルからなる行列を  $\tilde{F}$  とする。すなわち、 $\gamma(F; \tilde{F}) = k$  とする。そのとき  $\mathcal{O}(\text{PG}(k-1, \delta))$  および  $\mathcal{O}(\delta^{k-p} - F_r)$  の互に直交する principal idempotents  $A_\alpha^\# (\alpha \in \overline{\text{PG}}(k-1, \delta))$ , および  $B_\alpha^\# (\alpha \in \overline{\mathcal{P}}(\tilde{F}'))$  を求

めるために次の Lemmas を述べる.

Lemma 1.  $\frac{1}{\delta}(A_0 + A_\alpha)$ ;  $\alpha \in PG(k-1, \delta)$  は *idempotent* であつて  $\mathcal{P}$ ,  $\mathcal{Q}$  を  $PG(k-1, \delta)$  の部分空間とするとき次の関係式が成立する.

$$(4.1) \quad \prod_{\alpha \in \mathcal{P}} \left( \frac{1}{\delta}(A_0 + A_\alpha) \right) = \frac{1}{\delta^{\ell+1}} \left( A_0 + \sum_{\alpha \in \mathcal{P}} A_\alpha \right)$$

$$(4.2) \quad \prod_{\alpha \in \mathcal{P}} \left( \frac{1}{\delta}(A_0 + A_\alpha) \right) \cdot \prod_{\beta \in \mathcal{Q}} \left( \frac{1}{\delta}(A_0 + A_\beta) \right) = \prod_{\alpha \in \mathcal{P} \cup \mathcal{Q}} \left( \frac{1}{\delta}(A_0 + A_\alpha) \right)$$

ここに,  $\ell$  は部分空間  $\mathcal{P}$  の次元数とする. 特に  $\mathcal{P} = PG(k-1, \delta)$  のときは

$$(4.3) \quad \prod_{\alpha \in PG(k-1, \delta)} \left( \frac{1}{\delta}(A_0 + A_\alpha) \right) = \frac{1}{\delta^k} \left( A_0 + \sum_{\alpha \in PG(k-1, \delta)} A_\alpha \right) = \frac{1}{\delta^k} G_{\delta, k}$$

が成立する.

証明  $\frac{1}{\delta}(A_0 + A_\alpha)$ ;  $\alpha \in PG(k-1, \delta)$  が *idempotents* であること, および (4.2) が成立することは (2.11) 式および可換性から明らかである. したがつて (4.1) 式を証明する. 部分空間  $\mathcal{P}$  の次元数についての帰納法で証明する.  $\ell=0$  のときは明らかに成立する.  $\mathcal{P}$  の次元数が  $\ell-1$  ( $\ell < k$ ) のとき (4.1) 式が成立したと仮定する.  $\mathcal{P}$  に 1 次独立な点  $\gamma \in PG(k-1, \delta)$  を考へれば (4.2) 式から

$$\prod_{\alpha \in \mathcal{P} \cup \{\gamma\}} \left( \frac{1}{\delta}(A_0 + A_\alpha) \right) = \prod_{\alpha \in \mathcal{P}} \left( \frac{1}{\delta}(A_0 + A_\alpha) \right) \cdot \frac{1}{\delta}(A_0 + A_\gamma)$$

が成立する. 帰納法の仮定から右辺の式は (2.11) 式を使うことにより

$$\frac{1}{\delta^\ell} \left( A_0 + \sum_{\alpha \in \mathcal{P}} A_\alpha \right) \cdot \frac{1}{\delta} (A_0 + A_\gamma) = \frac{1}{\delta^{\ell+1}} \left( A_0 + \sum_{\alpha \in \mathcal{P} \cup \{\gamma\}} A_\alpha \right)$$

が成立する。故に  $\mathcal{P}$  の次元数が 2 のときに (4.1) が成立する。

Lemma 2.  $PG(k-1, \delta)$  の部分空間  $\mathcal{P}, \mathcal{Q}$  について次のことがら成立する。

(i)  $\prod_{\alpha \in \mathcal{P}} (\frac{1}{\delta}(A_0 + A_\alpha)) - \frac{1}{\delta^k} G_{\delta^k}$  は idempotent である

(ii)  $\prod_{\alpha \in \mathcal{P}} (\frac{1}{\delta}(A_0 + A_\alpha)) - \frac{1}{\delta^k} G_{\delta^k}$  と  $\prod_{\beta \in \mathcal{Q}} (\frac{1}{\delta}(A_0 + A_\beta)) - \frac{1}{\delta^k} G_{\delta^k}$  とが互に直交するための必要十分条件は  $\mathcal{P} \cup \mathcal{Q} = PG(k-1, \delta)$  であることである。

証明 Lemma 1. から明らかである。

次の Lemma も, Lemma 1. を用いて証明できる。

Lemma 3.  $PG(k-1, \delta)$  の  $k-2$  次元の部分空間  $\mathcal{P}$  に対して

$$A_{\mathcal{P}}^{\#} = \prod_{\alpha \in \mathcal{P}} (\frac{1}{\delta}(A_0 + A_\alpha)) - \frac{1}{\delta^k} G_{\delta^k}$$

とするとき  $[A_{\mathcal{P}}^{\#}]$  は  $\mathcal{O}(PG(k-1, \delta))$  の既約な両側 ideal であり, その principal idempotent は  $A_{\mathcal{P}}^{\#}$  である。また

$$I_{\delta^k} = A_0^{\#} + \sum_{(\mathcal{P})} A_{\mathcal{P}}^{\#} ; A_0^{\#} = \frac{1}{\delta^k} G_{\delta^k}$$

は  $\mathcal{O}(PG(k-1, \delta))$  に応ずる単位元  $I_{\delta^k}$  の互に直交する idempotents の分解を与える。ここに和  $\sum_{(\mathcal{P})}$  は  $PG(k-1, \delta)$  のすべての  $k-2$  次元部分空間  $\mathcal{P}$  についての総和を意味する。

$PG(k-1, \delta)$  の  $k-2$  次元部分空間  $\mathcal{P}$  は, 適当な点  $\alpha \in PG(k-1, \delta)$  をとって

$$\mathcal{P} = \{ \mathcal{P} \mid \mathcal{P}'\alpha = 0, \mathcal{P} \in PG(k-1, \delta) \} \equiv (\alpha)$$

で表わすことができるから, Lemma 1, 3. を用いて  $\mathcal{O}(PG(k-1, \delta))$  の互に直交する principal idempotents は

$$(4.4) \quad \left\{ \begin{aligned} A_{\alpha}^{\#} (\equiv A_{(\alpha)}^{\#}) &= \frac{1}{\delta^{k-1}} \sum_{\substack{f'_{\alpha}=0 \\ f \in \overline{PG}(k-1, \delta)}} A_f - \frac{1}{\delta^k} G_{\delta^k} ; \alpha \in PG(k-1, \delta) \text{ のとき} \\ &= \frac{1}{\delta^k} \left\{ (\delta-1) \sum_{\substack{f'_{\alpha}=0 \\ f \in \overline{PG}(k-1, \delta)}} A_f - \sum_{\substack{f'_{\alpha} \neq 0 \\ f \in PG(k-1, \delta)}} A_f \right\} \\ A_0^{\#} &= \frac{1}{\delta^k} G_{\delta^k} \end{aligned} \right.$$

で与えられる。また  $\mathcal{O}(\delta^{k-p} - F_r)$  の場合についても Lemmas 1.2.3 と同様の Lemmas が成立するから、 $\mathcal{O}(\delta^{k-p} - F_r)$  の互に直交する principal idempotents は

$$(4.5) \quad \left\{ \begin{aligned} B_{\alpha}^{\#} &= \frac{1}{\delta^{k-1-p}} \sum_{\substack{f'_{\alpha}=0 \\ f \in \overline{\mathcal{P}}^{k-1-p}}} B_f - \frac{1}{\delta^{k-p}} G_{\delta^{k-p}} ; \alpha \in \mathcal{P}(\tilde{F}') \text{ のとき} \\ &= \frac{1}{\delta^{k-p}} \left\{ (\delta-1) \sum_{\substack{f'_{\alpha}=0 \\ f \in \overline{\mathcal{P}}^{k-1-p}}} B_f - \sum_{\substack{f'_{\alpha} \neq 0 \\ f \in \overline{\mathcal{P}}^{k-1-p}}} B_f \right\} \\ B_0^{\#} &= \frac{1}{\delta^{k-p}} G_{\delta^{k-p}} \end{aligned} \right.$$

で与えられることがわかる。idempotents  $A_{\alpha}^{\#}$ ,  $B_{\alpha}^{\#}$  の rank はそれぞれ

$$(4.6) \quad r(A_{\alpha}^{\#}) = \begin{cases} \delta - 1 & ; \alpha \in PG(k-1, \delta) \text{ のとき} \\ 1 & ; \alpha = 0 \text{ のとき} \end{cases}$$

$$(4.7) \quad r(B_{\alpha}^{\#}) = \begin{cases} \delta - 1 & ; \alpha \in \mathcal{P}(\tilde{F}') \text{ のとき} \\ 1 & ; \alpha = 0 \text{ のとき} \end{cases}$$

である。また  $A_{\alpha} = \sum_{\beta \in \overline{PG}(k-1, \delta)} z_{\beta\alpha} A_{\beta}^{\#}$ ,  $A_{\alpha}^{\#} = \sum_{\beta \in \overline{PG}(k-1, \delta)} z_{\alpha\beta} A_{\beta}$  とすれば

$$z_{\alpha\beta} = r_{\alpha} z_{\alpha\beta} / (v_r n_{\beta}) ; r_{\alpha} = r(A_{\alpha}^{\#})$$

であるから、(4.4)式を  $A_\alpha$  について解けば

$$(4.8) \quad \begin{cases} A_\alpha = (\delta - 1) \sum_{\substack{f' \alpha = 0 \\ f \in \overline{PG}(k-1, \delta)}} A_f^\# - \sum_{\substack{f' \alpha \neq 0 \\ f \in \overline{PG}(k-1, \delta)}} A_f^\# ; \alpha \in PG(k-1, \delta) \text{ のとき} \\ A_0 = \sum_{f \in \overline{PG}(k-1, \delta)} A_f^\# \end{cases}$$

が得られる。同様に(4.5)式を  $B_\alpha$  について解けば

$$(4.9) \quad \begin{cases} B_\alpha = (\delta - 1) \sum_{\substack{f' \alpha = 0 \\ f \in \overline{P}(\tilde{F})}} B_f^\# - \sum_{\substack{f' \alpha \neq 0 \\ f \in \overline{P}(\tilde{F})}} B_f^\# ; \alpha \in \mathcal{P}^{k-1-p} \text{ のとき} \\ B_0 = \sum_{f \in \overline{P}(\tilde{F})} B_f^\# \end{cases}$$

が得られる。

### §5. $\mathcal{O}(PG(k-1, \delta))$ と $\mathcal{O}(\delta^{k-p} - F_r)$ の間の関係

$\mathcal{O}(PG(k-1, \delta))$  および  $\mathcal{O}(\delta^{k-p} - F_r)$  の幾何学的意味を考へて、我々は実数体上の  $v_k$  次元 Euclid 空間から  $v_{k-p}$  次元 Euclid 空間への線型写像  $\sigma$  を与える operator 重を次の様に定義する。

$$(5.1) \quad \Phi (\equiv \Phi(F; \underline{x})) = \|\varphi_{\underline{x} \underline{a}}\| (\delta^{k-p} \times \delta^k), \quad \underline{x} \in \overline{F}_f^{k-p}, \quad \underline{a} \in EG(k, \delta)$$

ここに

$$\varphi_{\underline{x} \underline{a}} = \begin{cases} 1 ; & \underline{x} = \underline{a} \text{ のとき} \\ 0 ; & \underline{x} \neq \underline{a} \text{ のとき} \end{cases}$$

とする。  $\Phi$  による  $\mathcal{O}(PG(k-1, \delta))$  の線型写像:

$$\sigma : A \longrightarrow \Phi A \Phi' \quad (A \in \mathcal{O}(PG(k-1, \delta)))$$

を考へる.  $\Phi A_{\alpha} \Phi'$  は明らかに

$$(5.2) \quad \Phi A_{\alpha} \Phi' = \begin{cases} B_{\alpha} & ; \alpha \in \bar{\mathcal{P}}^{k-1-p} \text{ のとき} \\ 0 & ; \text{otherwise} \end{cases}$$

である. (4.4) 式および (4.5) 式から

$$(5.3) \quad \Phi A_{\alpha}^{\#} \Phi' = \begin{cases} \frac{1}{\Delta^p} B_{\alpha}^{\#} & ; \alpha \in \bar{\mathcal{P}}(\tilde{F}') \text{ のとき} \\ \frac{\Delta-1}{\Delta^p} B_{\alpha}^{\#} & ; \alpha \in \bar{\mathcal{P}}(F') \text{ のとき} \end{cases}$$

が成立する.

係数  $\frac{1}{\Delta^p}$ ,  $\frac{\Delta-1}{\Delta^p}$  を度外視して (5.3) 式を満す,  $\Phi$  によって定義される  $\mathcal{O}(PG(k-1, \Delta))$  の線型写像  $\sigma$  を 一部(実施)相似写像 (fractionally similar mapping) ということにする.

任意の  $\alpha \in \overline{PG}(k-1, \Delta)$  に対して

$$\alpha = \xi \alpha_1 + \alpha_2 \quad (\alpha_1 \in \bar{\mathcal{P}}(\tilde{F}'), \alpha_2 \in \bar{\mathcal{P}}(F'), \xi \in GF(\Delta))$$

として一意的に書き表わされるから, 簡単な計算で,  $\alpha \neq 0$  のとき

$$(5.4) \quad \Phi A_{\alpha}^{\#} \Phi' = \begin{cases} \frac{1}{\Delta^p} B_{\alpha_1}^{\#} & ; \xi \neq 0 \text{ のとき} \\ \frac{\Delta-1}{\Delta^p} B_{\alpha_2}^{\#} & ; \xi = 0 \text{ のとき} \end{cases}, \quad \alpha = \xi \alpha_1 + \alpha_2$$

であることがわかる. 以上のことより線型写像  $\tau$ :

$$(5.5) \quad \tau(A_{\alpha}^{\#}) = \begin{cases} \frac{\Delta^p}{\Delta-1} \sigma(A_{\alpha}^{\#}) & ; \alpha \in \bar{\mathcal{P}}(F') \text{ のとき} \\ \Delta^p \sigma(A_{\alpha}^{\#}) & ; \text{otherwise} \end{cases}$$

と定義すれば

$$(5.6) \quad \tau(A_{\alpha}^{\#}) = \begin{cases} B_{\alpha_1}^{\#} & ; \alpha = \xi \alpha_1 + \alpha_2, \alpha_1 \in \bar{\mathcal{P}}(\tilde{F}'), \alpha_2 \in \bar{\mathcal{P}}(F'), \xi \neq 0 \\ & \text{のとき} \\ B_{\alpha_2}^{\#} & ; \alpha \in \bar{\mathcal{P}}(F') \text{ のとき} \end{cases}$$

が成立する.



以上のことより次の定理を得る。

定理 II. (5.5) 式によって定義される  $\mathcal{O}(PG(k-1, \delta))$  から  $\mathcal{O}(\delta^{k-p} - F_r)$  への線型写像では (5.6) 式によって,  $\mathcal{O}(PG(k-1, \delta))$  の  $\frac{\delta^p - 1}{\delta - 1} + 1$  個の idempotents  $A_{\alpha_2}^{\#}$ ;  $\alpha_2 \in \bar{\mathcal{P}}(F')$  が  $\mathcal{O}(\delta^{k-p} - F_r)$  の同一の idempotent  $B_{\alpha_1}^{\#}$  に対応し,  $\delta^p$  個の idempotents  $A_{\xi\alpha_1 + \alpha_2}^{\#}$ ;  $\alpha_1 \in \mathcal{P}(\hat{F}')$ ,  $\alpha_1$  個定,  $\xi \neq 0$ ,  $\alpha_2 \in \bar{\mathcal{P}}(F')$ , が  $\mathcal{O}(\delta^{k-p} - F_r)$  の同一の idempotent  $B_{\alpha_1}^{\#}$  に対応する。

## §6. Block design と Relationship algebra

$\delta^k$  個の treatments  $\phi(\underline{a})$ ,  $\underline{a} \in EG(k, \delta)$  のどの treatments を実施するかを指定するために用いた  $GF(\delta)$  上の行列  $F(p \times k)$ , および実施した treatments  $\phi(\underline{x})$ ,  $\underline{x} \in \mathcal{F}_f^{k-p}$ , をどのように blocks に配置するかの仕方を指定するために  $r$  個の  $GF(\delta)$  上の  $l \times k$  行列  $B_i$ ;  $i = 1, \dots, r$  を導入する。ここに  $F, B_i$ ;  $i = 1, \dots, r$  は次の条件をみたすものとする。

$$(6.1) \quad r(F'; B_1'; \dots; B_r') = p + rl \leq k$$

$EG(k, \delta)$  上の  $k - p - l$  次元超平面:

$$(6.2) \quad \mathcal{B}_{i\underline{u}} = \{ \underline{x} \mid F\underline{x} = \underline{f}, B_i \underline{x} = \underline{u} \}, \quad \underline{u} \in EG(l, \delta)$$

を考える。明らかに  $\mathcal{B}_{i\underline{u}}$  の点の個数  $\kappa$  は

$$\kappa = \delta^{k-p-l}$$

である。

$\mathcal{B}_{i\underline{u}} \ni \underline{x}$  に対応する treatments  $\phi(\underline{x})$  によって block  $\phi(\mathcal{B}_{i\underline{u}})$

$$(6.3) \quad \phi(\mathcal{B}_{i\underline{u}}) = \{ \phi(\underline{x}) \mid \underline{x} \in \mathcal{B}_{i\underline{u}} \}$$

を構成する。

このように  $v = \delta^{k-p}$  個の *treatments* を  $r\delta^l$  個の *blocks*  $\phi(B_{i\mathbf{u}})$ ,  $i = 1, \dots, r$ ,  $\mathbf{u} \in EG(l, \delta)$  に配置するときの *design* の *incidence matrix* を  $N$  で表わす。すなわち

$$(6.4) \quad N = \|n_{\mathbf{x}, i\mathbf{u}}\| \quad (\delta^{k-p} \times r\delta^l)$$

である。ここに

$$n_{\mathbf{x}, i\mathbf{u}} = \begin{cases} 1 & ; \mathbf{x} \in B_{i\mathbf{u}} \text{ のとき} \\ 0 & ; \text{otherwise} \end{cases}$$

とする。  $N$  は  $v \times b$  行列 ( $v = \delta^{k-p}$ ,  $b = r\delta^l$ ) であつて、 *block* の大きさ、および反復数はそれぞれ  $k = \delta^{k-p-l}$ ,  $r$  であることがわかる。

いま  $B_{i\alpha} = \mathbf{0}$ ,  $\alpha \in \mathcal{P}^{k-1-p}$  をみたす  $i$  を  $i = i_1, \dots, i_{\lambda_\alpha}$  とし,  $i \neq i_1, \dots, i_{\lambda_\alpha}$  に対しては  $B_{i\alpha} \neq \mathbf{0}$  とする。  $\lambda_\alpha$  は明らかに  $\alpha$  だけに関係する。すなわち互に  $\alpha$ -th *associate* である 2 つの *treatments*  $\phi(\mathbf{x})$ ,  $\phi(\mathbf{y})$  の会合数は  $\lambda_\alpha$  であることが容易にわかるが、会合数  $\lambda_\alpha$  は互に  $\alpha$ -th *associate* である *treatments*  $\phi(\mathbf{x})$ ,  $\phi(\mathbf{y})$  の選び方に無関係である。よつてこの *design* は  $\delta^{k-p}$  - *fractional factorial association scheme* を有する *PBIB design* (*Partially balanced incomplete block design*) である。したがつて、行列  $N$  について次の関係式が成立する。

$$(6.5) \quad NN' = rB_0 + \sum_{\alpha \in \mathcal{P}^{k-1-p}} \lambda_\alpha B_\alpha$$

また  $\mathcal{O}(\delta^{k-p} - F_r)$  の互に直交する *idempotents*  $B_\alpha^\#$ ;  $\alpha \in \overline{\mathcal{P}}(\widehat{F})$  を用いて

$$(6.6) \quad NN' = \sum_{\alpha \in \overline{\mathcal{P}}(\widehat{F})} \mu_\alpha B_\alpha^\#$$

と表わされる。ここに

$$(6.7) \quad \begin{cases} \mu_{\alpha} = rR = r + (\Delta - 1) \sum_{\beta \in \mathcal{P}^{k-1-p}} \lambda_{\beta} \\ \mu_{\alpha} = r + (\Delta - 1) \sum_{\substack{\beta' \alpha = 0 \\ \beta \in \mathcal{P}^{k-1-p}}} \lambda_{\beta} - \sum_{\substack{\beta' \alpha \neq 0 \\ \beta \in \mathcal{P}^{k-1-p}}} \lambda_{\beta} ; \alpha \in \mathcal{P}(\tilde{F}') \text{ のとき} \end{cases}$$

である。\$NN'\$ が positive semi definite であることおよび (6.7) 式から既知の不等式:

$$(6.8) \quad 0 \leq \mu_{\alpha} \leq rR ; \alpha \in \bar{\mathcal{P}}(\tilde{F}')$$

が成立する。(6.7) 式よりまた

$$(6.9) \quad \mu_{\alpha} = \Delta \sum_{\substack{\beta' \alpha = 0 \\ \beta \in \mathcal{P}^{k-1-p}}} \lambda_{\beta} - r \frac{R - \Delta}{\Delta - 1} ; \alpha \in \mathcal{P}(\tilde{F}')$$

と書くことができる。\$B\_{\alpha}^{\#}\$ ; \$\alpha \in \mathcal{P}(\tilde{F}') に対応する treatment contrast の confounding coefficient \$c\_{\alpha}\$ は

$$(6.10) \quad c_{\alpha} = \frac{1}{rR} \mu_{\alpha} ; \alpha \in \mathcal{P}(\tilde{F}')$$

である[5].

\$n (= rv = br = r\Delta^{k-p})\$ 個の plots に適当に番号をつけて次の incidence matrices を定義する。

$$(a) \text{ treatment} : \Phi_T = \|\varphi_{fz}^T\| (n \times v)$$

$$(b) \text{ block} : \Phi_B = \|\varphi_{f, i_u}^B\| (n \times b)$$

ここに

$$\varphi_{fz}^T = \begin{cases} 1 ; \text{plots } f \text{ に treatment } \phi(z) \text{ が施されるとき} \\ 0 ; \text{otherwise} \end{cases}$$

$$\varphi_{f, i_u}^B = \begin{cases} 1; & \text{plot } f \text{ が block } \phi(B_{i_u}) \text{ に含まれるとき} \\ 0; & \text{otherwise} \end{cases}$$

とする。そのとき design の incidence matrix  $N$  について、 $N = \Phi_T' \Phi_B$  が成立する。Treatments  $\phi(\underline{x})$ ;  $\underline{x} \in \mathcal{F}_T^{k-p}$  の間に定義された association scheme の行列表現としての association matrices を導入したと同じように、plots の間の relationship の行列表現とみよされる relationship matrices を定義する[2].

(c) identity:  $I_n$  (d) universal:  $G_n$  (e) block:  $V = \Phi_B \Phi_B' = \|t_{fg}\|$

(f) treatments:  $T_\alpha = \Phi_T B_\alpha \Phi_T' = \|t_{fg}^\alpha\|$ ;  $\alpha \in \bar{\mathcal{P}}^{k-1-p}$

ここに

$$b_{fg} = \begin{cases} 1; & \text{plots } f \text{ と } g \text{ が同じ block に含まれるとき} \\ 0; & \text{otherwise} \end{cases}$$

$$t_{fg}^\alpha = \begin{cases} 1; & \text{plots } f \text{ と } g \text{ が互に } \alpha\text{-th associate である treatment を受} \\ & \text{けるとき} \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

である。Treatment relationship matrices  $T_\alpha$ ;  $\alpha \in \bar{\mathcal{P}}^{k-1-p}$  のかわりに  $\mathcal{O}(s^{k-p} - F_T)$  の互に直交する principal idempotents  $B_\alpha^\#$ ;  $\alpha \in \bar{\mathcal{P}}(\tilde{F}')$  に対応する matrices

$$(6.11) \quad T_\alpha^\# = \Phi_T B_\alpha^\# \Phi_T'; \quad \alpha \in \bar{\mathcal{P}}(\tilde{F}')$$

を定義すると便利である。

Relationship matrices  $I_n, G_n, V, T_\alpha$ ;  $\alpha \in \bar{\mathcal{P}}^{k-1-p}$  を生成元とする実数体上の algebra:

$$\mathcal{R} = \{ I_n, G_n, V, T_\alpha; \alpha \in \bar{\mathcal{P}}^{k-1-p} \}$$

は我々の PBIB design の relationship algebra とよばれている [2].

$\mathcal{R}$  は対称行列によって生成される algebra であるから, *Completely reducible* である. したがって  $\mathcal{R}$  は既約な両側 ideals の直和として表わされる. この既約成分の種類は  $NN'$  の固有値  $\mu_\alpha$  の値に応じて3通りの場合, すなわち  $\mu_\alpha = 0$ ,  $0 < \mu_\alpha < rR$ ,  $\mu_\alpha = rR$  に分類されることは既知であるから結果のみを記すことにする [5].

Case 1.  $\mu_\alpha = 0$  のときは  $\frac{1}{r} T_\alpha^\#$  は  $\mathcal{R}$  の1次元の両側 ideal の principal idempotent で,  $B_\alpha^\#$  に対応する treatment contrast は block に orthogonal である.

Case 2.  $0 < \mu_\alpha < rR$  のときは  $[T_\alpha^\#, VT_\alpha^\#, T_\alpha^\#V, VT_\alpha^\#V]$  は  $\mathcal{R}$  の4次元の両側 ideal であつて, complete  $2 \times 2$  matrix algebra に同型である. その principal idempotent は

$$(6.12) \quad E_\alpha^{\#(2)} = \frac{1}{rR - \mu_\alpha} (R T_\alpha^\# - V T_\alpha^\# - T_\alpha^\# V + \frac{r}{\mu_\alpha} V T_\alpha^\# V)$$

である. またこのとき  $B_\alpha^\#$  に対応する treatment contrast は block に partially confounded であり, その confounding coefficient は  $C_\alpha$  である. 更に block effect を消した  $B_\alpha^\#$  に対応する treatment contrast を与える idempotent は

$$(6.13) \quad F_\alpha^\# = \frac{R}{rR - \mu_\alpha} (I_n - \frac{1}{R} V) T_\alpha^\# (I_n - \frac{1}{R} V)$$

である. また treatments を無視した block contrast を与える idempotent は

$$(6.14) \quad H_\alpha^\# = \frac{1}{R \mu_\alpha} V T_\alpha^\# V$$

である.

Case 3.  $\mu_\alpha = rR$  のとき,  $\frac{1}{r}T_\alpha^\#$  は  $R$  の 1次元の両側 ideal の principal idempotent で  $B_\alpha^\#$  に対応する treatment contrast は block に totally confounded である.

以上のことより我々は既約成分の分類をするために次の Lemma は有用である.

Lemma 4.  $\mu_\alpha; \alpha \in \mathcal{P}(\tilde{F})$  について次の同値関係が成立する.

(i)  $\mu_\alpha = 0 \iff \alpha \notin \mathcal{P}(B_i); i = 1, 2, \dots, r$

(ii)  $0 < \mu_\alpha < rR \iff \alpha \in \mathcal{P}(B_i)$  となる  $B_i$  がある. 但し  $r \geq 2$  のとき

(iii)  $\mu_\alpha = rR \iff \alpha \in \mathcal{P}(B_1)$ , 但し,  $r=1$  のとき

したがって  $r=1$  の場合は partially confounded part が存在しない. また  $r \geq 2$  の場合には totally confounded part が存在しないことがわかる.  $k = p + rl$  のときは orthogonal part が存在しない. (ii) の場合はさらに  $\mu_\alpha = R$  であることがわかる.

証明 (6.9)式からわかるように  $\sum_{\substack{\beta' \alpha = 0 \\ \beta \in \mathcal{P}^{k-1-p}}} \lambda_\beta$  の値をしらべればよい.  $\lambda_\beta$  の定義から

$$(6.15) \quad (\Delta - 1) \sum_{\substack{\beta' \alpha = 0 \\ \beta \in \mathcal{P}^{k-1-p}}} \lambda_\beta = \sum_{i=1}^r \sum_{\underline{u} \in EG(\ell, \Delta)} n_{\underline{x}, i\underline{u}} \sum_{\substack{P \in GF(\Delta) \\ P \neq 0}} \sum_{\substack{\beta' \alpha = 0 \\ \beta \in \mathcal{P}^{k-1-p}}} n_{\underline{x} + P\beta, i\underline{u}}$$

である. (6.15)式の右辺において  $n_{\underline{x}, i\underline{u}} = 1$  のところのみをしらべればよい. このとき  $B_i \underline{x} = \underline{u}$  であるから

$$(6.16) \quad \sum_{\substack{\beta' \alpha = 0 \\ \beta \in \mathcal{P}^{k-1-p}}} n_{\underline{x} + P\beta, i\underline{u}} = \begin{cases} \frac{\Delta^{k-p-l-1}}{\Delta - 1} & ; \alpha \in \mathcal{P}(B_i) \text{ のとき} \\ \frac{\Delta^{k-p-l-1} - 1}{\Delta - 1} & ; \alpha \notin \mathcal{P}(B_i) \text{ のとき} \end{cases}$$

が成立する。したがって (6.15), (6.16) 式から

$$(6.17) \quad (\Delta-1) \sum_{\substack{B_\alpha = 0 \\ \alpha \in \mathcal{P}^{k-1-p}}} \lambda_\alpha = \begin{cases} \gamma(\Delta^{k-p-l-1}-1); & \alpha \notin \mathcal{P}(B_i); i=1, \dots, r \text{ のとき} \\ \gamma(\Delta^{k-p-l-1}-1) + \Delta^{k-p-l-1}(\Delta-1); & \alpha \in \mathcal{P}(B_i) \text{ とする } i \text{ があ} \\ & \text{るとき} \end{cases}$$

であることがわかる。(6.9), (6.17) 式から Lemma 4. が成立することがわか  
る。

また Lemma 4. の (1) を使うことにより

$$\delta - \nu + \sum_{\substack{\alpha \notin \mathcal{P}(B_i), i=1, \dots, r \\ \alpha \in \mathcal{P}(\tilde{F})}} \gamma_\alpha = \gamma - 1; \quad \gamma(B_\alpha^\#) = \gamma_\alpha$$

であるから, 一般化された Fisher の不等式

$$(6.18) \quad \delta \geq \nu - \sum_{\substack{\alpha \notin \mathcal{P}(B_i), i=1, \dots, r \\ \alpha \in \mathcal{P}(\tilde{F})}} \gamma_\alpha$$

が成立する。等号が成立するのは  $r=1$  の場合に限る。

以上のことより relationship に対応する  $n$  の単位元  $I_n$  の分解が次の  
様に一意的に表わされる [5].

$r=1$  の場合:

$$(6.19) \quad I_n = \frac{1}{n} G_n + \sum_{\substack{\alpha \notin \mathcal{P}(B_1) \\ \alpha \in \mathcal{P}(\tilde{F})}} T_\alpha^\# + \sum_{\alpha \in \mathcal{P}(B_1)} T_\alpha^\#$$

である。

$r \geq 2$  の場合:

$$(6.20) \quad I_n = \frac{1}{n} G_n + E_B + E_e + \frac{1}{r} \sum_{\substack{\alpha \notin \mathcal{P}(B_i), i=1, \dots, r \\ \alpha \in \mathcal{P}(\tilde{F})}} T_\alpha^\# + \sum_{i=1}^r \sum_{\alpha \in \mathcal{P}(B_i)} E_\alpha^{\#(2)}$$

ここに

$$(6.21) \quad \begin{cases} E_B = \frac{1}{k} V - \frac{1}{n} G_n - \sum_{i=1}^r \sum_{\alpha \in \mathcal{P}(B_i')} H_{\alpha}^{\#} \\ E_e = I_n - \frac{1}{k} V - \frac{1}{r} \sum_{\substack{\alpha \in \mathcal{P}(B_i'), i=1, \dots, r \\ \alpha \in \mathcal{P}(\tilde{F})}} T_{\alpha}^{\#} - \sum_{i=1}^r \sum_{\alpha \in \mathcal{P}(B_i')} F_{\alpha}^{\#} \end{cases}$$

である。idempotents  $E_B$  および  $E_e$  の rank は

$$(6.22) \quad \begin{cases} r(E_B) = r-1 > 0 \\ r(E_e) = (r-1) \Delta^{k-p} - r \Delta^l + 1 > 0 \end{cases}$$

で与えられる。  $E_{\alpha}^{\#(2)}$  の 1次元への分解は一意的ではないが block に直交する部分と含まれる部分に

$$E_{\alpha}^{\#(2)} = F_{\alpha}^{\#} + H_{\alpha}^{\#} ; \alpha \in \mathcal{P}(B_i'), i=1, \dots, r \quad (r \geq 2)$$

分解される。

### §7. aliases pattern と pseudo-block idempotents

(3.1)式を規定する行列  $F'$  の列ベクトルの生成する  $\overline{PG}(k-1, \Delta)$  の  $p-1$ 次元部分空間を便宜的に

$$(7.1) \quad \mathcal{P}_0(F') = \overline{\mathcal{P}}(F')$$

で表わすことにする。  $\overline{PG}(k-1, \Delta) \ni \alpha, \beta$  に対して、もし  $\alpha - \beta \in \mathcal{P}_0(F')$  のとき、  $\alpha$  と  $\beta$  とは同値であるといつて、  $\alpha \equiv \beta \pmod{\mathcal{P}_0(F')}$  と書くことにする。明らかにこの関係は同値律をみたす。  $\overline{PG}(k-1, \Delta)$  をこの同値関係によって互に同値であるものからなる類：

$$(7.2) \quad \overline{PG}(k-1, \Delta) / \mathcal{P}_0(F') = \{ \mathcal{P}_{\alpha}(F') \mid \alpha \in \tilde{\mathcal{P}}(\tilde{F}') \}$$



に分割する. ここに  $\mathcal{P}_\alpha(F') = \{\beta \mid \beta \equiv \alpha \pmod{\mathcal{P}_0(F')}\}$  とする.

$\overline{PG}(k-1, \delta) \ni \alpha, \beta$  に対応する idempotents  $A_\alpha^\#, A_\beta^\#$  が, もし  $\alpha \equiv \beta \pmod{\mathcal{P}_0(F')}$  であるとき, 互に別名 (alias) [1] であると定義する. この別名関係を  $A_\alpha^\# \sim A_\beta^\# \pmod{\mathcal{P}_0(F')}$  で表わす.  $\overline{PG}(k-1, \delta) \ni \alpha$  に対応する idempotents  $A_\alpha^\#$  の全体の集合:

$$(7.3) \quad A^\#(\overline{PG}(k-1, \delta)) = \{A_\alpha^\# \mid \alpha \in \overline{PG}(k-1, \delta)\}$$

をこの別名関係にある idempotents よりなる類:

$$(7.4) \quad A^\#(\mathcal{P}_\beta(F')) = \{A_\alpha^\# \mid \alpha \in \mathcal{P}_\beta(F')\}; \beta \in \tilde{\mathcal{P}}(F')$$

に分割される. すなわち

$$(7.5) \quad A^\#(\overline{PG}(k-1, \delta)) = \bigcup_{\beta \in \tilde{\mathcal{P}}(F')} A^\#(\mathcal{P}_\beta(F'))$$

である. (7.5) 式を (3.1) 式によつて決定される  $A^\#(\overline{PG}(k-1, \delta))$  の

aliases pattern ということにする.

定理 II から互に別名関係にある idempotents は (5.5) 式によつて定義される線型写像  $\tau$  によつて  $\mathcal{O}(\delta^{k+r} - F_r)$  の同一の idempotent に対応する.

§6 で実施した treatments をどのように blocks に配置するかの仕方を指定するために用いた  $r$  個の  $l \times k$  行列  $B_i; i=1, \dots, r$  に対して,

$\mathcal{P}(F'; B_i) \ni \alpha$  に対応する idempotents  $A_\alpha^\#$  の集合:

$$(7.6) \quad A^\#(\mathcal{P}(F'; B_i)) = \{A_\alpha^\# \mid \alpha \in \mathcal{P}(F'; B_i)\}$$

の元を (6.3) 式で定義した blocks の族  $\phi(\mathcal{B}_{i\mathcal{U}}); \mathcal{U} \in EG(l, \delta)$  ( $i$ : 固定) に付随した pseudo-block idempotents ということにする.

(5.6) 式から

$$T(A^*(\mathcal{P}(F); B_i)) = \{ B_{\alpha}^{\#} \mid \alpha \in \mathcal{P}(B_i) \}$$

であることがわかる。§6. から  $r=1$  の場合は, *pseudo-block idempotent* に対応する *treatments contrast* は *block* に *totally confounded* であり,  $r \geq 2$  の場合は  $B_{\alpha}^{\#}$  に対応する *treatment contrast* を除いて *partially confounded* で, その *confounding coefficient* は  $\frac{1}{r}$  であることがわかる。また *pseudo-block idempotent* ではない *idempotents*  $A_{\alpha}^{\#}$  に対応する *treatment contrast* は *block* に *orthogonal* である。

最後に, 広島大学理学部教授山本 純恭先生よりいただいたいろいろの御批判にたいして深く感謝します。

### 参考文献

- [1] Box, G.E.P. and Hunter, J.S. (1961) The  $2^{k-p}$ -fractional factorial designs. Part I and II, *Technometrics* Vol. 3, No. 3, 311-351. Vol. 3, No. 4, 449-458.
- [2] Ogawa, J. (1959) The theory of the association algebra and the relationship algebra of a partially balanced incomplete block design. *Inst. Statist. mimeo. Ser. 224* Chapel Hill, N.C.
- [3] Weyl, H. (1939) The classical groups their invariants and representations. Lond. Princeton Univ. Pres.
- [4] Yamamoto, S. (1964) Some aspects for the composition of relationship algebras of experimental designs. *J. Sci. Hiroshima Univ. Ser. A-I*, 28, 167-197.

- [5] Yamamoto, S. and Fujii, Y. (1963) Analysis of partially balanced incomplete block designs. J. Sci. Hiroshima Univ. Ser. A-I, 27, 119-135.
- [6] Yamamoto, S., Fujii, Y. and Hamada, N. (1965) Composition of some series of association algebras. J. Sci. Hiroshima Univ. Ser. A-I, 29, 181-215.